

12 飼葉桶の中から

…天国は 人ごみの中の飼葉おけの中から始ったと言ってもよろしいのではないかと思います。 どん底の飼葉おけの中に天国は来たのであります。…神の光に照らされたイエスさまのおられるところに 天国がある。幸いがある。それがたとえどんな場所であれ、台所であれ、職場であれ、学校であれ、 病床であれ、あるいは牢獄であれ、ふん尿のする飼葉おけの中でさえも、たちまち天国となるのであります。「貧しい人たちは幸いである。天国は彼らのものである。」「悲しむ人たちは幸いである。天国は彼らのものである。」「悲しむ人幸いだ。」「飢えかわく人たちは幸いだ。」「苦しむ人たちは幸いだ。」（マタイ5章）これらのイエスさまのお言葉は、イエスさまが貧乏のどん底の飼葉おけの中で、うぶ声を 上げられた時に、はじめて真理となったのであります。イエスさまが来られないならば、貧しい人たちは 幸いではありません。間

違いなく不幸であります。イエスさんにあって（共に在る時）、はじめて貧しい人たちは幸せだという不思議な言葉が現実となるのであります。貧乏のどん底の生活の中にも、天国を見出し所有する者とされるからであります。こうして、暗闇によって切断されていた天と地との闇が神の光によって結合されました。イエスというみどり子によって神と人とが結ばれたのであります。歴史はここに一変いたしました。天地の造り主（父なる神）と無関係に歩んできた人類の歴史、父なる神に背を向け反逆の道を歩み続けてきた世界、罪の泥沼の中をのたうち廻ってきた人類の歩み…、この真只中へ天から神のひとり子キリストが突入し、神自ら手をのぼし給うて人類の歴史と存在を、がっちり握りしめ給うたそのしるしが、飼葉おけに生まれ給うたイエスさまであります。神と人類は、ここに切っても切れない密接な関係を結ぶに至ったのであります。今や滅びつつあった人類の中へ、天からの救いの御手が介入されたのであります。その救い

の御手こそ飼葉おけの中に眠り給うイエスである。その方こそ主なるキリストである、世界の救主にしていただき 給う！！ 地上の地獄の中に。イエスによって天国が生まれたのであります。

(1978年12月 『復活』第154号)